

版画作りの第一の難関は、技術的なものだった。問題は山ほどあった。すべての物質を変えてしまう凍てつく気候、品不足、不便な交通……。暖房設備のある小さな仕事場を建て、版画を刷る手法もあみださなければ。

われわれは、北極に合った版画作りの方法に取り組んだ。それは、何世紀も間の日本人の知恵と、エスキモーの自由奔放な技能や夢との結晶であった。ケーブ・ドーセットにやってくるエスキモーにとって、興奮と喜びの日々が続いた。全く新しい何かが起こっていた。印刷というものが、この地にもやってきたのだ。古来の狩りの時代から新しい時代へと進む、胸躍らせる画期的なできごとが起こったのだ。

われわれは、方々からエスキモーの絵を集めた。これらが版画の下絵になるのである。

まもなく、きめの細かい版石が、最もインクに反応することを発見した。彫刻だけでなく、印刷にも適していることが

わかったのである。そんなに固くもなく、多孔性でもない。ちょうどいい地肌である。サクラの版木と同じくらい彫るのが楽しく、またみがきもかんたんにできた。エスキモーは、何世紀もの間、この石を手で掘りおこし、アザラシ油のランプやつばを作るのに使っていた。岩肌から裂けた、大きく、数インチほどの平たい石で、ほとんどの石影にはうす過ぎたが、石版画の版石にはちょうど良かった。

版石を作るには、まず手おので彫る面を平らにして、表面がまっすぐ、なめらかなようになるにみかき上げる。その平面に、薄い浮彫りの模様を刻むわけである。最上の版石の中には、長さ二フィート、厚さ六インチ、重さ百ポンド以上という、かなり大きいものもある。石には粒々がなく、どの方向にも相当正確に彫ったり刻んだりできる。

版石を切るのは、日本人が版画を創るのと同じやり方で行なう。印刷される線や部分は、なめらかな表面に残しておき、それ以外の部分はすべて切り捨てる。石が大変重いため、切断、インク塗り、印刷の際、ぶれることがない。

エスキモーは、やすりの先をかみそりの刀のように磨く方法を知っている。その腕と速さは、砥石と水ではがねを磨く専門家である日本人でも感心するほどである。

当初、謄写器は使わなかった。インクを塗った石版に、面を下にした紙をのせ、その上を指やアザラシの皮で作ったパレンで模様をきれいに写るまで軽くこするのである。はじめは、小さい単色刷りの版画を何点か作っただけであるが、やが

て多色刷りの大きな版画も沢山刷れるのではないかと確信した。そこでわれわれはテストをくり返し、いろいろな版画を作ってみた。これは、ケーブ・ドーセットだけでなく、北極の各地にある他のエスキモー村でも、まだ継続中だ。

エスキモーの版画家たちは、はじめ、日本でやっているように、水性の絵具を刷毛で石の表面に塗ってみた。しかし、北極がきわめて乾燥して寒く、紙の湿り気を保つことがむずかしいなど、いろいろ問題があつて、この方法はうまくいかなかった。あれこれ色を使ってやってみた結果、エスキモーは柔かいセラチンのローラーで油性の絵具をうすく塗ることにした。

石版の刷板には、「越前」、「美濃」、「出雲」の三種の和紙が理想的だった。これらのコウゾ紙は、うすくて強じんで、美しく、またかなり長持ちする。丸めて、(軽量だから)安く空輸することもできる。これは、われわれにとってありがたかった。やがて年間四千枚から五千枚の版画を輸出し、ウエスト・バフィン・エスキモー協同組合が二十五万ドルの収益を上げるようになったからである。

ケーブ・ドーセットの芸術家すべてに彼らの絵を版画にする方法を教えることは、とうてい無理だったし、実際的にもなかった。第一、時間も場所もなかった。それに、技術をもち込むことによつて、芸術家のかんやひらめきを損う心配もあった。

そこで、ケーブ・ドーセットに住む四人の若者が、各種の手法にとり組むことになった。この四人は、秀れた版画家に



育った。四人には何人かの助手がいて、重い石版を磨き、また時にはそれぞれの版画家の考えに忠実にしたがって、デザインの製版を手伝う。版画家、製版者、刷版者が分業になっているのは、ヨーロッパやアジアにおける初期の版画作りと同じである。版画家が製版も刷版も兼ねるといふ最近の傾向とは逆に、浮世絵のやり方にしたがっている。

どこのエスキモーにも、いくつかのエスキモー特有の視点があつて、風景や物を見るとき、西洋の伝統的な見方をしない場合がある。水中の魚を見るときのように上から見る場合もあれば、空中の鳥を見るときのように下から見る場合もある。彼らは、ときどき、鳥の版画を天井にかけて眺める。背景だとか、遠近法のわずらわしい規則にとらわれず、いろいろなイメージを空間にとらえて、そのひとつひとつの持ち味を生かせるコツを、彼らは知っている。

エスキモーの芸術家は、ひとつの作品の中でひとつのことをテーマにしようとすることが多い。これらのテーマは、普通、肉体と骨に関するものである。彼らは、狩人らしく観察が豊かで、動物の体